

苫小牧薬剤師会の防災への取り組み

苫小牧薬剤師会は、平成18年8月31日苫小牧市と防災協定を締結しています。協定に基づき、災害時備蓄医薬品の供給管理・在庫管理・品質管理システムの運用を市民薬局内にて実施しています。備蓄医薬品は市民薬局2階の緊急時災害対策事務局内にて、専用の棚・ケースに入れ保管しています(保冷品は1階冷蔵庫)。災害発生から3日間に予想される傷病(外発外傷、熱傷、挫滅創、切創、打撲、骨折等)に必要な、主に外科系措置の医薬品を揃えています。

市の防災計画(平成19年3月27日)では直下型の地震を想定して、人的被害の予測として罹災者数9410人を最大被害と想定しています。当会では、罹災者9500人の26.9%2555人分の対応、20品目約100万円の医薬品を揃えています。

お薬手帳を活用しましょう!

薬の飲み合わせ(重複・相互作用)や副作用を防ぐために!

災害時にも適切な治療を受けるために!

お薬手帳は、あなたが今使用している薬や以前に使用していた薬の名称や用量、用法などの情報を記録した手帳です。



お薬手帳の利点

その①

2か所以上の医療機関からもらった薬や町の薬局で購入したお薬を同時に服用すると飲み合わせ(相互作用)や重複投薬(別名同一成分なども)等によって思わぬ副作用や効果の低下等を起こすことがあります。これらを未然に防ぐことができます。

その②

災害時や外出時に事故にあった場合でも、この「お薬手帳」を携帯することで、現在使用している薬の内容がわかり、医療機関による救急処置が円滑に行われます。

その③

「お薬手帳」の記録をもとに、医師、歯科医師、薬剤師の連携が密になります。たとえば、以前に服用し副作用が出たことのある薬の再投与の回避や現在服用中のお薬で副作用が出ている場合、また、お薬の効果等の情報を共有することにより各分野での専門性が発揮され患者様のための医療が確立できます。